

生活環境常任委員会	10月15・16日	愛知県豊明市、岐阜県岐阜市
子ども教育常任委員会	10月21・22日	愛知県名古屋市、奈良県奈良市



子ども・若者への支援について

子ども教育常任委員会

社会的に自立できる生徒の育成 愛知県名古屋市

子ども中心の学びを大切に、子どもの学びに伴走する

子どもたちが自らのペースで興味・関心や能力、進度に応じ、自立して学ぶことを最大限に尊重する学びづくりを行うイエナプランの考え方を取り入れた名古屋市立山吹小学校の取組みを学びに名古屋市役所に伺いました。

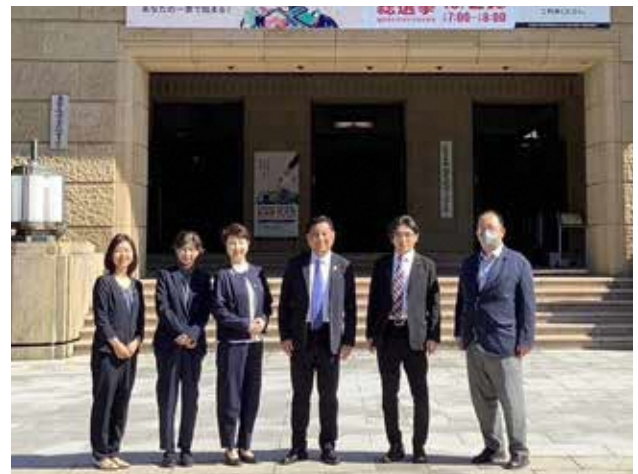
名古屋市は「そもそも教育とは何のためにあるのか」という原点に立ち返り『ナゴヤ学びのコンパス』を作り、これを教育施策の中心と位置付け、市内の学校・園に展開しています。取組みのポイントは①自分で自立して学び続ける子どもを育てる。②一斉授業の課題を解決する。

具体的には、異なる学年でグループを作って、子どもたちに集団の中で誰に対しても思いや考えが言える心理的安全性を育むためのサークル対話を行い、子どもたちには常に他の人たちの声に耳を傾けるということを大切にしているように伝えていきます。心理的安全性を高めることが、自立や学びに大きく影響するため、あえて授業の中で意図的に行うように取り組んでいます。

YST(山吹セレクトタイム)では、「いつ学ぶか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を自己選択・自己決定し、効果

的に一斉授業も取り入れています。

『ナゴヤ学びのコンパス』の方針や考え方は、今後の激しい時代の変化に沿うものであろうという印象でした。



さまざまな困難を抱える子ども・若者の支援 奈良県奈良市

関係者同士の連携で、子ども・若者を支える

「子ども・若者への相談体制、特に行政との繋がりが切れやすい高校進学時や就職時への支援」の調査のため、奈良市若者サポートセンター「Restartなら(リスなら)」を視察しました。

リスならは、中学校卒業後や高校退学後の若者に重点を置き、特に若者のひきこもり・ニート化を防ぐために、社会福祉協議会に委託して設置されました。子ども・若者に関する相談に応じ、関係機関に必要な情報提供、助言を行う拠点として関係機関へつなぐ役目を担っています。

また、従来の個別分野における縦割りの対応では限界があるため、社会生活を営む上での困難を抱える子ども・若者をネットワークで支えることを目的として「子ども・若者支援協議会」が設置されています。

特に伴走型支援を進めていくための「サポーターの養成」や「ねどこ」という居場所の構築、就労準備のための「ちょっとワークなら」の開設など、協議会で関係者同士が連

携を密にすることで切れ目ない支援につなげていく環境整備ができています。

多摩市においても子ども・若者サポートセンターや個別ケースの支援を検討する協議体の設置が必要であると感じました。

